令和7年度

環境経営活動レポート

エコアクション21
認証番号 0010405



対象期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日

発行年月 令和8年7月1日

改定年月

株式会社熊谷工務店

目　　次

	頁
１　環境経営方針	1
２　事業概要＆認証登録範囲	2
３　エコアクション２１実施体制	3
４　環境経営目標	4
５　環境経営活動計画	5
６　環境経営目標の実績	6,7
７　環境活経営動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容	8
８　次年度以降の取組内容・環境経営目標	9
９　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、 訴訟等の有無	10
１０　代表者による全体評価と見直し結果	10

環 境 経 営 方 針

〈環境経営理念〉

株式会社熊谷工務店は、昭和３３年以来、建設業に係る企業経営に取り組んでまいりました。
当社は、この地域の美しい自然環境を将来世代に引き継いでいくために、生活環境及び自然環境に配慮した企業運営に努め、地域の環境保全に寄与することはもっとも重要な使命であると考えています。
当社は、建設工事に係る事業活動に際し、環境負荷の低減及び環境保全に自主的・積極的に取り組み、継続的な改善を行うことを誓約します。

〈行動指針〉

１.事業活動の中で快適な生活を送るため環境保全を考えた活動を行います。

（１）二酸化炭素排出量の削減
（２）廃棄物削減
（３）化学物質削減
（４）水・排水量の削減

２.お客様との契約書に従い、省エネルギーの工法・設備機器の更新、
リフォームを推奨します。

３.環境・安全運転・教育を通し社員の意識向上に努めます。

４.事業活動に関連する法規制は、確実に遵守します。

５.地域貢献活動・環境保全活動への参加、環境活動レポートの公表など、
地域との環境コミュニケーションに努めます。

制定日：平成２６年　８月　１日
改訂日：平成２８年　５月３１日
改訂日：令和　２年　５月３１日
改訂日：令和　４年　５月３１日

株式会社熊谷工務店
代表取締役　熊谷 則子

２ 事業概要＆認証登録範囲

1名称及び代表者名

株式会社熊谷工務店
代表取締役　熊谷　則子

2 所在地

本　社　　盛岡市愛宕町９番１０号
作業所　　盛岡市愛宕町１９番７号

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者　　佐藤　友美
TEL　　019-623-5465　　FAX　　019-622-6340
URL　　http s ://kumagaik.jp

いわて地球環境にやさしい事業所（4つ星）

当社QRコード

4 事業活動の内容

【特定建設業】
建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工工事業、石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、解体工事業

【一般建設業】
土木工事業、舗装工事業、水道施設工事業

5 事業規模

資本金　　3,500万円
完成工事高　　万円 （令和7年度）
従業員数　　15 名
延床面積　　本社：180.75 m2作業所：210.34 m2

6 認証登録範囲

全サイト・全組織・全事業活動が認証登録範囲

いわて女性活躍認定企業（ステップ２）

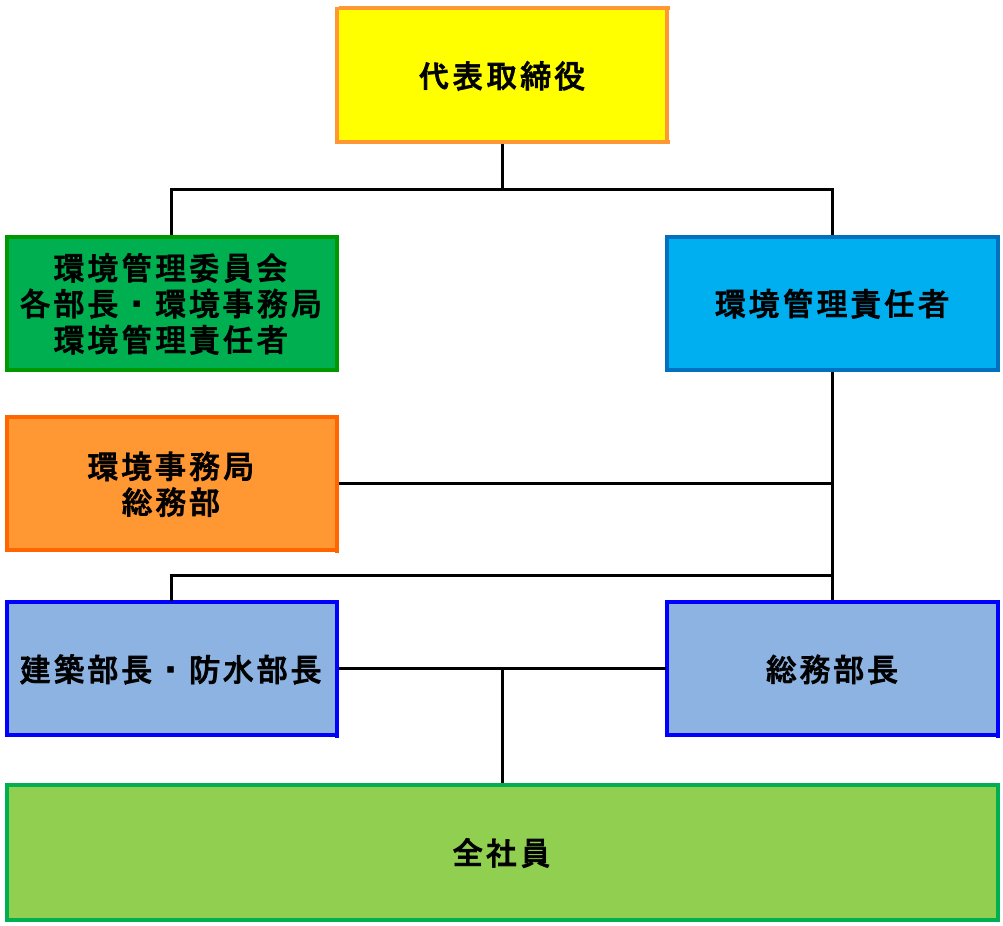
7 沿革

昭和３３年	４月	熊谷忠雄個人にて熊谷工務店を創業
昭和３９年	３月	有限会社熊谷工務店を設立　資本金250万円
昭和５１年	２月	熊谷キミ 代表取締役に就任
昭和６２年	９月	株式会社熊谷工務店に組織を変更　資本金2,000万円に増資
平成　元年	３月	資本金を3,500万円に増資
平成１６年	１２月	熊谷キミ 代表取締役会長に就任 熊谷則子 代表取締役社長に就任
平成２７年	１月	エコアクション２１ 認証取得 いわて地球環境にやさしい事業所 認定取
令和　元年	１１月	いわて女性活躍認定企業等（ステップ１）認証取得
令和　３年	９月	いわて子育てにやさしい企業等 認定取得
令和　３年	１１月	いわて女性活躍認定企業等（ステップ２）認証取得

いわて子育てにやさしい企業

３　エコアクション２１実施体制

１　組織図



２　環境経営システム　役割・責任・権限

役職	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任。
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。
	・環境管理責任者を任命。
	・代表者による全体の評価と見直しを実施。
	・課題とチャンスの明確化。
	・実施体制の構築。
環境管理委員会	・委員長は社長とし、環境管理責任者が召集する。
	・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を環境責任者は各部門で実施する。
	・内部監査の代わりに計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合が有る場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。
	・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
環境事務局（総務部）	・環境管理責任者の補佐。
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
	・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
	・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
部門責任者（部長）	・担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。
	・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。
	・従業員に対する教育訓練の実施。
全社員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

４ 環境経営目標

１　環境経営目標の設定

当社では、令和４年度を基準年度として中期及び単年度の環境経営目標を、それぞれ表１のとおり設定し、環境経営活動に取組んでおります。

表１　環境経営目標　　基準年度(令和４年度）比の削減(増加）率（%）

項目	基準年度実績値		中期目標（内単年度目標）		
	実績値	単位	令和５年度	令和６年度	令和７年度
二酸化炭素排出量	31,042	kg-CO_2	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
電力使用量	19,659	Kwh	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
軽油使用量	1,191	L	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
ガソリン使用量	4,948	L	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
灯油使用量	2,332	L	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
ＬＰＧ使用量（※データ管理み）	継続	kg	継続	継続	継続
産業廃棄物排出量	104	t	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
建設廃棄物再資源化率の向上		%			1.0%増加
一般廃棄物排出量	継続	t	継続	継続	継続
総排水量（水資源投入量）（※データ管理のみ）	継続	m3	継続	継続	継続
化学物質の削減（トルオール）	153	kg	1.0%削減	1.5%削減	2.0%削減
省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する	継続	件	継続	継続	継続
環境苦情０件を継続する	0	件	継続	継続	継続
環境関連教育	1	回	1	1	1
地域貢献活動（4月・8月）	2	回	2	2	2
その他の取組(カーボンオフセット)	▲1	t	▲1	▲1	▲1

注1：購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表
（東北電力）の調整後排出係数(令和4年度）０．４２１ｋｇ－ＣＯ２/ｋｗｈを使用。
注2：都市ガス、ＬＰＧ、総排水は使用量が僅かのため数値管理とする。
注3：地域貢献活動は４月と８月に参加する。
注4：その他の取組としてカーボンオフセットに参加する。

５ 環境経営活動計画

当社では、環境経営方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境経営目標を達するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に等に取組んでおります。取組の内容は、表２のとおりです。

表２　主な環境経営活動計画の取組内容

項目		取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	照明	使用していない部屋は照明消灯を確実に実行する
		不要な照明を消灯する
		事務室の部分照明を実行する
	冷暖房	冷暖房の無駄を省きクールビズ、ウォームビズを励行する
	節電	退社時はパソコンの電源を切る
	車輌	アイドリングストップを実践する
		急発進・急加速はしない
		冷暖房の控え目運転の実施
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物の削減	ミスコピーを減らす
		業務に支障のない文章は両面印刷コピーを行う
		古紙リサイクルを徹底する
		電子メールを利用し、紙の使用量削減に努める
		郵便物・宅配便等の包装はできるだけ簡易なものを選ぶ
		OA機器のトナー、インクカートリッジの回収、リサイクルを推進する
	産業廃棄物（建設副産物）の削減	工事の工程ロスを削減する
		分別を徹底し、保管する
		マニフェストをもとに廃棄物の適正な処理を行う
		廃棄物処理業者に廃棄物処理が適正に行われているか確認する
節水・排水	用水・排水	トイレ用水の節約に努める
		水道水を流しながら使用しない
		水道水を出し過ぎない
化学物質の削減		化学物質（トルオール）の使用量の削減に努める
その他の取組	環境配慮工事	建設資材の再資源化を促進する
		騒音・振動等発生する場合は打合せの上、変更等を含めて検討する
		粉塵防止のため適切な散水を行う
		悪臭が発生する恐れのある作業の場合は作業方法等に配慮する
		公共工事：発注者の仕様に満足する施工を行う
		民間工事：省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する
	その他	環境に関するセミナー等に積極的に参加する
		会議・朝礼等で環境活動の報告を行う
		地域で開催される清掃活動等に参加する
		カーボンオフセット（排出権）を購入する

６　環境経営目標の実績

当社では、環境経営目標の達成状況の確認・評価を行いました。
今回は、令和７年４月から令和８年３月までの実績についての評価結果を報告いたします。

表３　当該年度の環境経営目標の達成状況等

項目	単位	令和４年度（基準年通年）	当該年度（令和７年４月～令和８年３月）				結果
		実績値	削減（増加）目標	目標値	実績値	金額	
二酸化炭素合計	kg-CO_2／年	31,042	2.0%削減	30,421	23,909		○
		評価					
電力使用量	kwh／年	19,659	2.0%削減	19,266	10,440	387,459	○
		評価	目標を大きく達成することができた。				
軽油使用量	Ｌ／年	1,191	2.0%削減	1,167	1,529	232,377	×
		評価					
ガソリン使用量	Ｌ／年	4,948	2.0%削減	4,851	4,509	800,733	○
		評価					
灯油使用量	Ｌ／年	2,332	2.0%削減	2,285	1,996	233,950	○
		評価	例年よりも寒い冬になり、12月から2月までの3ヶ月間で灯油の使用量が増加した。				
ＬＰＧ使用量 ※データ管理のみ	kg／年	継続	継続	継続	継続	継続	
		評価					
産業廃棄物 （焼却+最終処分）	ｔ／年	104	2.0%削減	102	10.68		○
		評価	仕事量が少なかったこともあるが、廃棄物削減に大きく貢献できた。				
建設廃棄物再資源化率の向上	%／年		1.0%増加				
		評価	再資源化率を大幅に増加できたので良かった。				
一般廃棄物	ｔ／年	継続	継続	継続	継続	継続	
		評価					

項目	単位	令和４年度（基準年通年）	当該年度（令和７年４月～令和８年３月）				結果
		実績値	削減（増加）目標	目標値	実績値	金額	
総排水量（節水） ※データ管理のみ	m3／年	継続	継続	継続	継続	継続	
		評価					
化学物質の削減（トルオール）	kg／年	153	2.0%削減	150	0		○
		評価	今年度は使用量０であった。				
省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する	件／年	継続	継続	継続	継続		○
		評価	引続き、積極的にお客様にお奨めする。				
環境苦情０件を継続する	件／年	継続	継続	継続	継続		○
		評価	苦情０件を維持できるよう引き続き努力したい。				
環境関連教育	回／年	1		1	2		○
		評価	外部教育を受講した者が皆に周知した。				
地域貢献活動	回／年	2		2	4		○
		評価	今年度は全部で３回参加した。				
その他の取組（カーボンオフセット）	t-CO_2／年	▲1		▲1	▲2		○
		評価	２ｔカーボンオフセットを行った。（三田農林㈱）				

注1：購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表（東北電力）の調整後排出係数（令和4年度）0.421kg－CO_2/kwhを使用。

注2：都市ガス、ＬＰＧ、総排水量は使用量が僅かのため、数値管理とする。（一般廃棄物も同様）

地域貢献活動の状況

・河川敷清掃（令和７年４月）

・道路清掃（令和７年８月）

・御所湖清掃（令和７年１０月）



7　環境経営活動計画の取組結果とその評価

1　取組結果の評価

表４　主な環境活動計画の内容と取組内容

項目		実施状況の評価	達成度
二酸化炭素排出量の抑制	照明	使用していない部屋は照明消灯を確実に実行する	◎
		不要な照明を消灯する	○
		事務室の部分照明を実行する	◎
	冷暖房	冷暖房の無駄を省きクールビズ・ウォームビズを励行する	◎
	節電	退社時はパソコンの電源を切る	◎
	車両	アイドリングストップを実践する	◎
		急発進・急加速はしない	◎
		冷暖房の控え目運転の実施	○
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	ミスコピーを減らす	◎
		業務に支障のない文章は両面印刷コピーを行う	◎
		古紙リサイクルを徹底する	◎
		電子メールを利用し、紙の使用量削減に努める	◎
		郵便物・宅配便等の包装はできるだけ簡易なものを選ぶ	◎
		OA機器のトナー、インクカートリッジの回収、リサイクルを推進する	◎
	産業廃棄物	分別を徹底し、保管する	◎
		マニフェストをもとに廃棄物の適正な処理を行う	◎
		廃棄物処理業者に廃棄物処理が適正に行われているか確認する	◎
節水・排水	用水・排水	トイレ用水の節約に努める	◎
		水道水を流しながら使用しない	◎
		水道水を出し過ぎない	◎
化学物質の削減		化学物質（トルオール）の使用量の削減に努める	◎
その他の取組	環境配慮工事	建設資材の再資源化を促進する	◎
		騒音・振動等発生する場合は打合せの上、変更等を含めて検討する	◎
		粉塵防止のため適切な散水を行う	◎
		悪臭が発生する恐れのある作業の場合は作業方法等に配慮する	◎
		公共工事：発注者の仕様に満足する施工を行う	◎
		民間工事：省エネルギーの工法、設備機器の更新リフォームを推奨する	◎
	その他	環境に関するセミナー等に積極的に参加する	◎
		会議・朝礼等で環境活動の報告を行う	◎
		地域で開催される清掃活動等に参加する	◎

◎：評価できる　○：まずまず評価できる　△：評価できない

８ 次年度以降の取組内容

次年度の取組内容（達成期間は各年度末）

（1）二酸化炭素排出量の削減	・冷暖房の無駄を省き、電気・灯油の使用量を抑える。 ・引続き、車両の入替えがあった場合エコカーの導入を検討する。
（2）産業廃棄物の排出量の削減	・各々のごみの排出を減らす努力をする。
（3）化学物質使用の削減	・トルオールの使用量を削減する。
（4）その他の取組	・建設資材の再資源化をさらに進める。 ・引続き、環境苦情０件を継続する。

次年度の環境経営目標

環境経営目標の設定

当社では、令和７年度を基準年度として中期及び単年度の環境経営目標を、それぞれ表１のとおり設定し、環境経営活動に取組んでおります。

表１　環境経営目標　　基準年度（令和７年度）比の削減（増加）率（%）

項目	基準年度実績値		中期目標（内単年度目標）		
	実績値	単位	令和８年度	令和９年度	令和１０年度
二酸化炭素排出量	23,908	kg-CO_2	2.5%削減	3.0%削減	3.5%削減
電力使用量	10,440	Kwh	2.5%削減	3.0%削減	3.5%削減
軽油使用量	1,528	L	2.5%削減	3.0%削減	3.5%削減
ガソリン使用量	4,509	L	2.5%削減	3.0%削減	3.5%削減
灯油使用量	1,996	L	2.5%削減	3.0%削減	3.5%削減
ＬＰＧ使用量（※データ管理のみ）	継続	kg	継続	継続	継続
産業廃棄物排出量	104	t	2.5%削減	3.0%削減	3.5%削減
建設廃棄物再資源化率の向上	92.6	%	1.0%増加	1.5%増加	2.0%増加
一般廃棄物排出量	継続	t	継続	継続	継続
水使用量（排水量）（※データ管理のみ）	継続	m3	継続	継続	継続
化学物質使用の削減（トルオール）	0	kg	継続	継続	継続
省エネ工法、設備機器更新を推奨する	継続	件	継続	継続	継続
環境苦情０件を継続する	0	件	継続	継続	継続
環境関連教育	1	回	1	1	1
地域貢献活動（年２回以上）	2	回	2	2	2
その他の取組（カーボンオフセット）	▲2	t	▲2	▲2	▲2

注1：購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表
（東北電力）の調整以後排出係数（令和4年度）０．４２１ｋｇ－ＣＯ２／ｋｗｈを使用。
注2：都市ガス、ＬＰＧ、総排水は使用量が僅かのため数値管理とする。
注3：地域貢献活動は４月と８月に参加する。（可能であれば６月と１０月も）
注4：その他の取組としてカーボンオフセットに参加する。

９ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける環境関連法規（建設リサイクル法・廃棄物処理法等）について遵守状況を
チェックしたところ違反はありませんでした。
また過去３年間、関係当局からの批判等の指摘、住民からの苦情、訴訟について問題はありませんでした。

適用される法規制	具体的な遵守事項	遵守
廃棄物処理法	マニフェストの交付及び管理票交付等状況報告書	○
資源有効利用促進法（リサイクル法）	再資源化の促進、再資源の利用	○
消防法	指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外で取り扱ってはならない。	○

１０ 代表者による全体評価と見直し結果

見直し項目	評価	改善及び指示
環境経営方針	環境経営方針に沿った継続的な活動を行っている。	見直しなし。
環境経営目標	一項目未達成で残念ではあるが、他の多項目は達成できていたので引続き継続する。	見直しなし。
環境経営活動計画及び実施体制	次年度以降も試行錯誤を図り効果的な施策を実施する。	見直しなし。
その他		
全体評価	環境にやさしい行動が当たり前の事としている社員のいい気な努力を高く評価する。	